## 男子100kg級

準決勝戦第1試合 3新井 優来 (ぎふ柔道クラブ24)

背負投 ○ 4 増渕 樹 (旭化成)

新人の新井は第5回戦の延長戦旗判定による勝利以外は順調に勝利を収めて 準決勝戦に勝ち上がる。対するは過去90kg級で優勝、準優勝、第3位各1 回の輝かしい実績を誇る増渕。階級を上げて臨んだ本大会ではオールー本勝の 破竹の勢いで準決勝戦に。

試合は、左右のケンカ組手ながら開始早々から増渕は組手十分の内股で攻め る。そして、開始1分1秒には、機を窺って仕掛けた背負投が見事に決まる。

## 準決勝戦第2試合

3野田 嘉明 (旭化成)

 $\bigcirc$ 総合勝 3 奥井 真也

(東芝)

昨年第3位入賞の野田は、得意の背負投を駆使して今年も準決勝戦に勝ち進 む。一方の奥井は接戦を制して3年ぶりに準決勝戦進出を果たす。

共に左組み。奥井は前の試合が延長戦での旗判定。一試合おいての対戦だけ に疲労の回復度合いが懸念されるところ。余力を残す野田は開始早々から背負 投げで積極的に攻める。開始50秒で奥井に指導1。

その後1分21秒にも受けに回る奥井に二度目の指導。奥井の疲労の色は濃 く、1分49秒、野田の背負投を奥井は横に回りかわそうとするが、野田はそ の足を払い、横転させて技ありを奪う。

試合は、野田の一方的な攻勢となり、ついに2分46秒、主審、副審協議の うえ奥井に指導3。野田の総合勝となる。

## 決勝戦

4 増渕 樹 (旭化成)

 $\bigcirc$ 内股 3野田 嘉明

(旭化成)

同一チーム、僚友の対決に控えも応援席も静まりかえる。増渕左組み、野田 右組みのケンカ組手。長身で手足の長い増渕が野田を大外刈、大内刈の足技で ぐらつかせる。上背の無い野田は懐の深い増渕に潜り込めず攻めあぐむ。

57秒、増渕が大内刈で有効を先取。その後、攻めの無い野田に指導1。増

渕攻勢のうちに迎えた試合時間折り返しの2分30秒、増渕が体を開きながら 内股で野田を高く跳ね上げて一本。

増渕は3年前の第38回大会の90kg級優勝に続く2度目の優勝。堂々の 二階級制覇達成。